

一般的に畑地・樹園地における農薬の流出は農薬処理後の降雨等によるものが大きいのですが、畑地・樹園地からの河川への農薬流出のリスクは水田に比べて少ないと考えられています。農薬散布時の飛散の低減をはかることで流出防止につながります。

1) 飛散防止対策

散布時には圧力、方向、位置などに配慮し、強風時には散布しないなど基本的な散布操作を守ることが大切です。場面に応じ、以下の点にも留意しましょう。

(1) 手散布や動力噴霧器の場合

- 飛散低減ノズルを用いて散布することで農薬の飛散を抑えることができます。



慣行ノズル



飛散低減ノズル

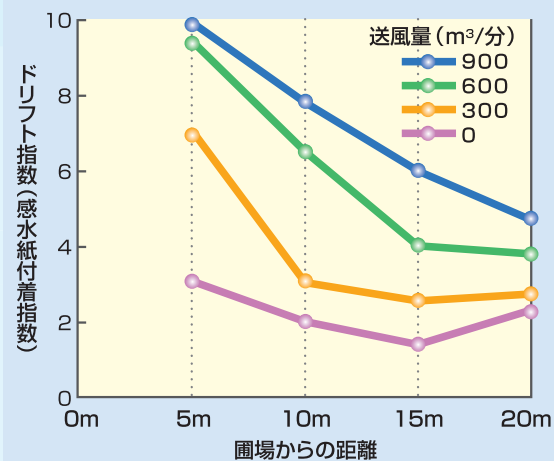
（「地上防除ドリフト対策マニュアル」より引用）

(2) スピードスプレーヤーの場合

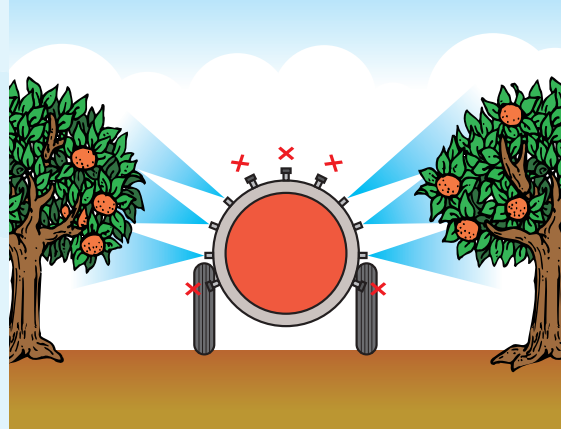
- 送風量が少ないほど飛散は低下するので、送風量は必要な範囲で可能な限り少なくします。
- ノズルの配列に注意し、図のように散布対象がない方向のノズルを止めます。
- 噴霧量の少ないノズルを使用する、巡回時は噴霧を止める、園地の端部での散布には特に注意する等の対策も重要です。
- これらの対策は薬剤使用量の低減にもつながります。

■送風量と飛散（ドリフト）

（2005年 日本植物防疫協会・生物系 特定産業技術研究支援センター）



■適切なノズル配列



（「地上防除ドリフト対策マニュアル」より引用、一部改変）

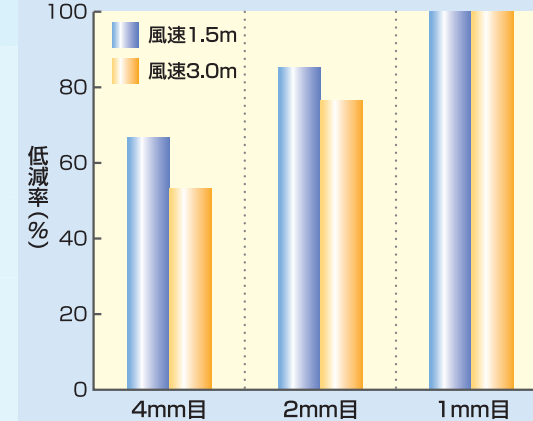
(3) 遮蔽物の設置

①防薬ネット

- 防薬ネットを使用した場合、全く対策を行わなかった場合に比べて極めて高い飛散抑制の効果があります。
- 防薬ネットの目合いが細かいほど遮蔽効果が高くなりますが、ネットに十分な高さがとれていないと目合いが細かいほど噴霧液の舞い上がりによる飛散が生じますので、作物の種類に合わせてネットの高さを確保することが重要です。

■ネットの遮蔽効果

（2005年 日本植物防疫協会）



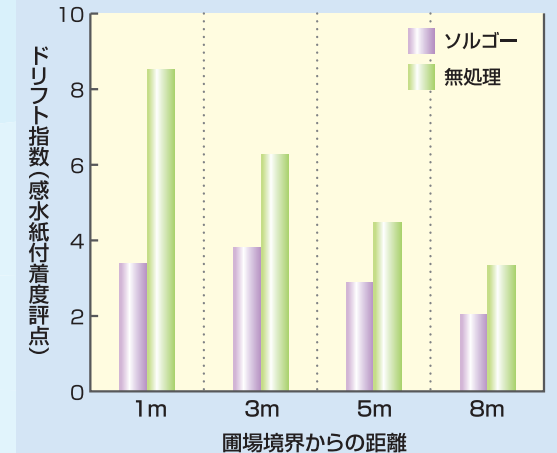
（「地上防除ドリフト対策マニュアル」より引用）

②遮蔽作物

- 遮蔽作物として利用できる作物としては、高さや繁茂が十分あるものです。さらに、安価で成長が早く病害虫に強ければ有望です。全国的に利用されているソルゴーは高い遮蔽効果があります。

■露地ナス畑のソルゴーによる飛散（ドリフト）防止効果（動力噴霧器による散布）

（群馬県普及指導室）



（群馬県農政部技術支援課普及指導室提供）



ネギ畑でのソルゴーによる飛散防止
（写真右側の背の高い植物がソルゴー）

（香川県中讃農業改良普及センター提供）